ＪＲ山陰本線出雲以西並びに山口線線路改良および安全確保について

中 国 部 会 提 出

ＪＲ山陰本線出雲以西区間は、開通から１００年以上が経過し、線形の悪さや老朽化、さらに自然災害に対する脆弱性が深刻な問題となっている。

令和３年８月の大雨では出雲市多伎町にて大規模な地すべりが発生し、国道９号線沿いの土砂崩落とともに、山陰本線の出雲～大田市間が運転見合わせとなった。江南～田儀間では長期間の運休を余儀なくされ、地域住民の生活や交通に大きな影響を与えた。さらに昨年は益田市において軟弱地盤の影響で長期不通となる事態も生じており、降雨時の運休が恒常化している。

特急列車においても線形改良は一部行われたものの、直線区間は少なく急カーブが多いため、運転士の負担が大きくスピード調整も難しい状況にある。令和４年には出雲～益田間で年間赤字が３５億円に達し、営業係数の悪化を受けて減便措置がとられた。

高速道路網も未整備の区間が残る中で、鉄道は地域住民にとって重要な生活・経済インフラである。鉄道の安全確保と安定した運行は、地域の持続的発展に不可欠である。

ついては、次のとおり国の責任において早急かつ計画的に対応されることを強く要望する。

１　出雲以西区間における線形の抜本的改善（直線化、カーブ緩和）を実施すること。

２　軟弱地盤や災害リスク箇所の恒久的な補強・改修を講じること。

３　雨天や自然災害時にも安定した運行を可能とするインフラ整備を推進すること。

４　山陰本線および山口線を含む地域鉄道網の中長期的維持・更新のための制度を構築すること。